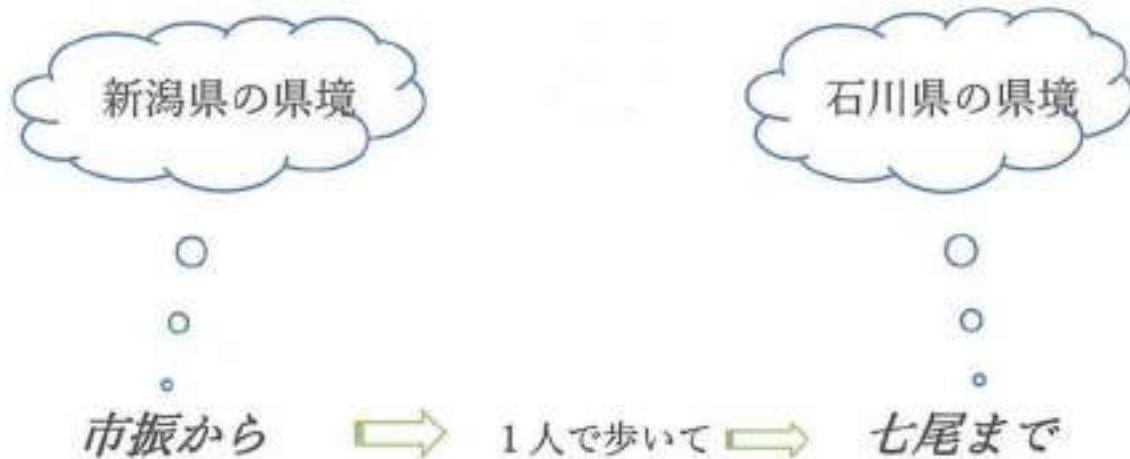


富山湾岸膝栗毛



歩行記録



期間 2021年4月1日～8日

初めに

目的は **富山をもっと知ろう**

富山 GOTU の旅 富山湾岸を歩く

コロナ禍の中 人が動けばコロナのリバウンドが発生する。しかし人の暮らしに長く静の行動制限には限りがあり規制が解ければ必然的に動の行動が大きくなる。地元富山で GOTO を考えて見てはと県境の市振～七尾の県境まで湾岸を歩きながら富山の魅力・見どころを体験する事にしました。部分的には車で通っていますが本当の良さが解らない。ゆっくりと時間を掛けながら富山の良さに接してみたい。

ちょうど私も 80 歳と節目になり富山の事は意外と知らない事に気が付き計画をしました

歩きながらもう一度越中富山の良さを再認識してはと考えスタートは4月1日から天候の良い日(雨の日は中止)からと考え目的地まではあいの風鉄道を利用して市振へ～そこから歩く

：：富山湾岸は世界に誇る良き湾であるが直接接してみたい・・・

*G7の環境会議が開催された (SDGs の活動につながる)

*富山湾は「世界で最も美しい湾」に認定されていて世界大会が開催された

*富山湾岸ナショナルサイクルルートに国が認定

*富山湾がマリンチェック街道に国土交通省が認定

(日本海側で唯一のクルージングルート)

・ここでヨットのタモリカップが4年連続開催されました

・ヨットの国際大会 極東杯国際ヨットレースが開催されました

・その他に魅力が沢山

宮崎海岸のヒスイ石は歴史があり 県境に関所が・・・なんと県境に水島の姓が超多い

タラ鍋の名所 生地の可動橋 砲台 魚の駅生地 生地の風車(富山最大級)

杉沢の沢杉 昔からの四十物昆布店(北前船) 魚津の蟹気楼 日本最古魚津水族館

米騒動の発祥の地(今映画化)⇒氷見の七尾県境迄歩いて良さを探索・・・・等々

新潟県の市振県境から

石川県の七尾県境までひとり旅

：4月1日（木曜日）晴（2021年）

記 松井和夫

朝 家を6時に出発し富山駅へ

あいの風鉄道に乗りし泊駅迄（愛の風鉄道はここまで えちごトキメキ鉄道に乗り換える）

富山駅発6時52分—泊7:39分 乗り換え7:51発—市振8:01分着

ここから歩きのスタート 晴れていて気持ちが良い 道路沿いの民家は過疎化が進んでいるのか空き家が目立ち寂しさを感じる 市振は漁村である ここに「市振の関・道の駅」あり 店内に入る ユニークな売り場が気になる 県境と文化のさかい目の地であるからでは？ 売り方・商品群が気になる 店内は関東・関西味に分けてある 富山と新潟のお土産が別々に 横にヒスイの販売店があり簡単な鑑定もして頂けそうである



関東味 VS 関西味の食品



とやまのお土産



新潟のお土産

まだ肌寒く車・人通りが少ない 1・5 km (30分) ほど歩くと県境の境川 ここから「富山県」 県境の看板が目につく 地名は越後と越中の“境”だからと地名が付けられたと地元の方に聞く ここを過ぎると富山県である 昔は藩が違う



県境の境川と道路案内

ため交流が無かった様であるが 今は朝日町の公営バスが市振迄来ている？ 何故ですかと地元の方に聞くと糸魚川まで時間が掛かり朝日町が近いので買い物・病院などはこのバスを利用していますと話しあり 朝日町の境地区に入ると建物が人が生き生きと見える ここはまだ過疎化が進んでいないとの事 道路から見える表札は「水島」の姓が多い 家の前にいた方に話を聞くと60～70%くらいは「水島」の姓であるとの事

山と海が近く平野部が少なくところどころにお墓が目につく。民家とお墓が共存している様である



2 kmぐらい歩いたところから宮崎地区である バンガロー、BBQ の場所が目に入る 国道沿いにはタラ汁のお店が目につく。境地区の海岸はテトラポット(?)が目につき宮崎地区に入ると小石の海岸である ここならヒスイの探索が出来そうである 又釣りの場所としても良いと聞かさ

ヒスイテラス (ヒスイ海岸観光交流拠点施設) れた ヒスイテラスで小休止とする

この時ここで働いているおばさんに出会う 親切なお方で 「七尾まで行くの」 私も以前、女性3人で行きましたと話あり 要領は無理をしないで少く事ですと話を頂き参考になりました

「今日は向こうに見える大きな風車が見えるところまでいかれた方が良いでしょう」と話された

海岸線にはコンビニ・お店が無く漁港のお店があるので道案内をして頂く。ここには「何でもあるよ」との事でありました が小さなお店で日用品の簡単なものしかなくここでの生活用品であれば充分でなかろうかと思った

宮崎漁港は旧国道より低く階段で降りていく 細長い漁港である 前は日本海であり海が荒れると港からの出入りが大変では、漁港の入り口周辺には岩礁、暗礁が見え隠れしている、慣れないと出入りが難しいと感じた

少し行くと海まで立山連峰の左端が伸びてきている そこが城山である 多分城山は海まで伸びていたのでは 山のふもとから海岸まで30m前後か その間にあいの風鉄道の単線と旧国道があるのみ ここは親知らずよりは良い方と土地の方に聞



じょうべのみま遺跡

(平安時代の住居の跡)



浄化センターの風力発電機

(富山県では1番大き風車)

かされた この宮崎地区から能登半島の先端が天候が良ければ良く見えるとの事 今日 は曇りでぼんやりとしてはっきり見えず ここから又テトラポットの海岸線が続く ただ 黙々と歩く お昼になりどこか食べる所は?

近くの人に聞くもこの辺にはコンビニも

食べる所ありませんと話された

入善の町まで行かないとないですと (境川より小川までが朝日町と教えて頂く)。小川を渡るまで海岸線を歩く 大きな風車が近くに見え始めたので近くまで歩く ちょうど北日本新聞社朝日入善支局長の高野さんに出会う

じょうべのみま遺跡迄車に同乗 (約 2~3 分) 遺跡の建屋にてインタビューを受ける 目の前に大きな風車が 富山県で一番大きな発電風車であり家庭の 700 件分の発電能力があると お腹が空いていたので町 (食堂) まで送って頂く 最高に美味しかった 又食べに来たいと記憶にとどめる 高野支局長には近隣の良い所を多く教えて頂き感謝してい

ます 町から1時間ほど歩き海岸線に戻り防波堤の横を歩き始める 海岸線を歩く事2時間 歩いても歩いても海岸が続く 自動車道は直線が多く距離が短いのではと考える 大きさの差があるも海岸は大きな円弧の一部が組み合わせた様な凹凸がある 防波堤の工事をしている処に 工事で小休止になるまで待つっていると 作業をしている方から工事を1時中止され「こちらえ」と手招きあり 親切である 「気を付けて」の言葉を頂き工事場を通る この時 「杉沢の沢スギ」はどこでしょうかと話をする と「過ぎたよ」と話された 車で送りましょうかと 親切な言葉に驚きましたが沢杉の場所は海岸から少し離れていたもので丁寧に断りして先に進みました

少し歩くと怖そうなおじいさんがこちらを見ておられたので言葉を掛けたら非常に話しやすいお方でありました 「今このコロナの時期ご年配の方は理解し動かないが若い方たちは動き過ぎる 動かなければ収まるのに」と話される なるほどとうなずくも 多分戦争の体験があるのではと感じました

入善漁港に着きこの横が黒部川とわかりました 橋は上流の方なので近道を確認するも 河口より歩くしかなく 2~3 km テクテクとあるく 湾岸を歩くより旧国道の方が近い事がここまで歩いて来てわかりました。

川を渡るときは橋しかありません 多くは河口より上流にあり この道のりが大変です 上流まで歩き橋を渡り海岸線に戻



川幅が長〜い下黒部橋

りただ歩き続ける 足が痛くなり17時近くになるのでどこか泊まる所を聞くとこの周辺には見つからず 足が痛く靴を抜いて確認 水膨れて大変な事になっていて明日から心配 ちょうどあいの風鉄道の生地の駅近くで足の両親指の感覚が無くなり治療も含めて家に帰る事に変更する(愛の風にて生地駅より富山に) 富山からマイカーにて自宅に・風呂に入るも足が痛くて湯に付けられず 妻に足の治療をお願いする 明日が心配だ、、、歩けるだろうか？

:4月2日(金曜日) 晴

朝5時30に起床し準備して富山駅に(足が痛むが歩くことが優先で)、そこからあいの風鉄道にて生地駅へ 降車後 都度魚の駅「生地」までの道順を訪ねる 方向は指示頂くも 歩く?本当にと相手にされず約2時間ほど歩いて到着する 裏道を歩いていたのか ほぼ2~3人ほどの方にしか合わなかった

疲れたので魚の駅のベンチで少し休憩する 魚の駅は黒部漁港でもある こんなところに漁港がと驚くも近くが海である さてここでは2つ見たいものがある

- ① 可動橋であり
- ② 「生地の清水」の洗い場である



全国でも珍しい可動橋



魚の駅「生地」



生地の清水

可動橋は歩いて5分ほどの所に 少し待つも開かず、操作される方に確認すると船の出入りが無いと動かないとの事 日中であり漁船の出入りが無いので可動橋の確認のみとする

「清水の洗い場」はどこですかと近くのおばちゃんに聞く 丁寧に教えて頂く その道を真っすぐ行くと幾つかありますと案内して頂く 屋根付きの部屋のようになっていて綺麗な水が勢いよく流れている 雨風が来ても関係なく利用出来る 良く写真・テレビに出てくる姿である 屋根もなく水が流れている所もあり、やはり水が冷たくきれいである。富山市内に住んで居ると考えられない水量（豊富できれい）である また海岸線を歩く

前方の海岸線の端が小さく見える 遠いなど考えながら歩く 休む水分補給を交互にしながら歩く

石田漁港に着く 昼食を食べようと2階に行くも食堂はなし（閉店中）又ここは石田フィッシャリーナでもありモーターボート・ヨットが置いてある 又釣り場として沖合に飛び出ている突堤がある 横が「片貝川」ですと聞くと違います「布瀬川」です おかしいなあと 歩いていくと判りました

大きな川が並行して2本流れていて河口近くで合流しているのである 河口より上流へ向かって歩き橋（布瀬川・片貝川）を渡る ここまで黒部市で渡ると魚津市となる 海岸に向かって歩くと大きな港に出る 経田漁港である やはり大きいし広い ここから北方遠洋漁業へ出発する港であった 大きな船が保留されていた ここから蟹気楼ロードが西に向かって始まる

海岸線を自動車道と歩道が並行して長く伸びている 海の駅蟹気楼が見えない

遠いな だだ黙々と歩く 途中道のりを確認するも

「遠いですよ但し途中に休憩する公園が2~3ヶ所あるから休みな

がら行かれた方が良いでしょう」とアドバイスを頂く その場所で少し

休憩をしながら歩く 途中からお腹がすいてきたが昼食はまだである 海の駅蟹気楼に到着 人がやはり多い コロナが心配だがまずはお腹が空いている 昼食をとる（やっと生き帰る）食事後この辺を少し見学 埋没林の博物館が見える 蟹気楼展望台もあり人が多い しかし今日は曇りであまり見通しが良くない ここは魚津漁港でセリがあり漁船もたくさん係留



経田漁港の全体像

してあるがしかし魚津魚港と書いてない？ 何かの違いか その近くにある漁港も魚津補助港となっている 調べてみると蟹気楼の見える港であり整備方針も景観も考慮され管理されている様な港だとか（近くの方に聞く） 埋没林の博物館を横に見ながら歩く 歩きながら地元の方に米騒動発祥の場所を聞くともう少し行くと公園有り そこに米俵3表の造形物があり 湾岸道路の横に説明標識もある



博物館内の埋没林



船が縦に長く伸びている蟹気楼



米騒動発祥の地の記念碑

説明文を読みながら「ここがいま話題の場所か」としばらくたたずむ

子供たちが無邪気に遊んでいるのが微笑ましい さらに海岸沿いを歩く この辺は富山湾が全体に良く見えて見通しが良い（但し当日は曇り） 時間も午後4時近くになり寒くなる 遊園地で名のあるミラージュランド そして日本で一番古い魚津水族館迄歩く 大きな川は早月川で河口に日本海側で一番大きな観覧車がある 近くで見るとさらに大きく見える 道を挟んで反対側に水族館がある 平日でありどちらにも人影がなく静寂です ここで終了とし近くの東滑川駅まで歩く（寒い）



ミラージュランドの観覧車



魚津水族館の正面

まだ4月の初め夕方3時を過ぎると
寒い 用意した暖房用の雨具を着て歩かないと 夕方5時ごろになると暗くなる 車に気を付けて歩かなければと急ぐ 足の痛みが心配

駅までの道順を聞きながら歩く

駅に着き乗車し富山駅より車で家に 寒くて足がひりひりする 風呂に入り手当をする 明日は大丈夫だろうか？

：4月3日（土曜日）晴

朝6時30分ごろ家を出る 富山発7時頃のあいの風鉄道に乗車し東滑川7:40分頃に着く 天気が良いので気持ちが良い 足の方も朝心配であったが歩き始めると何とか今日一日頼むぞの気持ちが働く 途中道を聞きながら田んぼ道を歩く 本当に近道なのかな 私の姿を見て “新聞で見たよ”と声が “頑張られ” “無理しられんな” と知らない方より励ましの言葉はうれしいものです そうだなと思いながら・・大きな川沿いに出たので間違いなし 早月川である 対岸が滑川で

ある 昨日うす暗い時に歩いたので感覚が違う 早月橋まで来たので又海岸沿いに歩く 今日は走っている方々が多いな
あとすれ違う そうだ今日は土曜日で休日である事に気が付く 会う人が多い また若い人との出会いが

何かとウキウキする

見る所はホタルイカミュージアムまで ここはホタルイカの観光地 富山湾岸クルージングなど滑川漁港をめざして
歩く 漁港には大きな船が4隻停泊 目に付く ①海上観光のキラリン ②滑川高校海洋課の実習船

② 漁業調査船“立山丸”あと1隻わからず ほかの漁港とは少し違う。すぐ横にホタルイカミュージアムが タラソピ



ホタルイカ漁と観光船



滑川漁港観光船キラリン

ア 海の駅 ウェーブパーク滑川にて昼食をと
る 今日は休日であり混んでいるので少し待つ
海を見ながらの食事も晴れていて気持ちがうわず
る。休憩後海岸線を歩くと大きな防波堤が見え

てきた 高さは10m以上か？ 背にして家も

建っている所もあり、調べると日本一の防波堤とわかる。



日本一高い防波堤



高い防堤にピクチャが描いてある

過去に津波が押し寄せ（より周り波）大きな被害が発生 丁度この辺り（高月）に集中する場所である この防波堤
の上に登るのは大変だどこかに階段があるので？ 近くに誰もいなく聞くことが出来ない ある所では住宅の1部
が防波堤になっているようにも見える所もある どちらが先に 多分家の方が先でそのあと防波堤かな？ 上市川を
渡り少し行くと富山市水橋である 河口に高月漁港（滑川）らしき場所が ただし漁船の姿は見えない 後日確認に行
くも見あらず 近くの方に聞くも以前に無くなりました ほかの方に聞くと50年もここに住んでいるが漁港があ
った事を初めて知りましたとの事 インターネットに資料が存在 変更す必要あり？ 通常の漁港とは少し異なるの
かな しかしこの周辺のテトラポットの配置がすごい テトラの数量も多く3重にも4重にもなっているのは富山県
内でここだけである。やはりより周り波が大変な場所なのかと気づく 水橋に向けて歩く 前にも書きましたが海岸を

歩くのは遠回りである 一般道の方が距離が短いし歩きやすい

テトラポットは海岸部分にわずかに抜ける所があるがほぼ連続的に置いてある

海岸を守る事は住民を守る事になると理解する

白岩川の河口に着く。わずかであるが上流側へ歩き橋を渡る。目の前に水橋漁港が見える こじんまりとした漁港で水橋フイッシャリーナと同じ出入り口であり海が荒れても漁港内は静かなのではと感じる

今日は土曜日でありマリーナは船の出入りが多いのでは 漁船と出入り口が同じであり事故が気になる
が多分ヒヤリハットがあるのでは・・・



水橋フイッシャリーナの全景

すぐ横が大きな常願寺川が流れている。ここの河口は白岩川と合流していたが分離されて単独の河口となる 川の大きさに比べて今日は水量が少ないのでは、今川橋を渡る ここから海岸に出て護岸堤を歩く 即テントが目に入る 浜黒崎キャンプ場である ここまで何ヶ所か浜辺に面したキャンプ場が

目に入るが4月の初めにもうキャンプとは少人数でゆっくりとしている方が目

に付く このコロナ対応の時期 良い事では 3 蜜を避け音楽を掛けながらパソコンとは時代が大きく変化してきている事を実感する これは私しだけであろうか・・・

海岸線が長く続く歩く歩くそして歩く・・・途中太陽行発電のパネルが4~500mほどの長い距離に設置されていた
海岸線に設置は 塩害が有るので通常は設置を避けるのでは しかし塩害の対策技術がそこまで来ているのかな
誰も通らない所にこんなにたくさん設置 脱カーボンが少しずつ浸透してきているのか

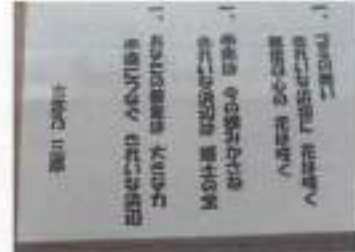
と考える また途中で素晴らしい環境保護の看板が設置されていました。海岸を汚さない様に、汚れていたら各自拾ってここに集積してくださいゴミ袋が置いてあります ご自由に利用してください・・・ボランティア活動



好きな月・日に利用して



ちょっと待てそのゴミを



綺麗な海に花が咲く郷土の宝

本当に助かります SDGsにもつながり地球を救う事になります

岩瀬近くに来ると防波堤が無くなる サイクリングロードが古志ホテル裏側より車道へつながり 砂浜が大きい

からか(砂にうずもれて居るのか) 見ている解らない もうひとつ感じたのは沖合にあるテトラポット群に10人位の人が 中に女性の方も釣りをしているので見に行くと砂浜とテトラポットが繋がっている事に気が付く 長い年月で沖合のテトラポットと砂浜が繋がるとは 驚きである 先に進む

岩瀬漁港まで長かった 17時を過ぎて周りが暗くなってきた この時期やはり昼は温かいが15時を回ると寒いです ライトレールの岩瀬駅に ちょうど18時の電車が 始発駅なので座れる 富山駅へ 車で家に着く

足の裏が心配 とりあえず風呂に そのあと何時ものように足の手入れ 爪が剥離してきているな 葉を塗る 包帯を巻き爪が引っ掛から無い様にする

4月4日(日曜日) 雨

朝から激しい雨に 今日中止とする 体の休養日に そして足先の手入れに専念する 次のコースの下調べの確認も 昔の売薬さんは歩いて想像を超えた距離を また参勤交代で江戸までは大変な距離だと新ためて感じる

4月5日(月曜日) 晴

朝7時に家を出る 妻と岩瀬まで車で行く 今からスタートだが足の方はまだ痛む 歩き始めは痛い 我慢して歩く 少しずつ痛みが和らいでくる 簡単には治らず サポートしながら歩かないと 出勤時間帯か人が多い 岩瀬漁港へ行く 富山港の入り口が漁港の出入り口であり共用である

大きな港であり貨物船との接触注意が必要ではと考える 岩瀬運河も入口が共同であり富岩水上ラインも注意要であると考える 横に神通川が流れている もともと岩瀬港は神通川の河口であった 川砂利で港が浅くなり除去が大変で港と河口の分離が生じた 上流まで歩き荻浦橋を渡らないと草島地区には行けない ここから歩きのスタート 約1時間ほど



富岩運河で運行の水上ライン

今環水公園⇄岩瀬カナル会館迄の運行



富山港の全景(手前左は岩瀬漁港)

が見える 今や脱炭素の象徴である

歩き荻浦橋まで来る やはり大きな河口である 黒部川 常願寺川と並ぶ長い橋である。右側に

火力発電所の大きな煙突

四方漁港迄もくもくと歩く。まとまりがあるも余り大きくない漁港である この先を見ると大きなつり橋が小さ

く見える 新湊大橋である まだまだ気の遠くなりそうな距離である そうだここで気分転換に昼食をと考え付近を捜すも見当たらず 近くの人に聞くと 少し離ればコンビニがあるが食堂は無いですよとの返事 礼を言いたく歩く 途中家並みが有るが食べる所はなさそう そう思うと

余計におなかが空く 海老江海水浴場まで防波堤道路を歩く 近くに来ると工事中 砂浜の海岸堤防のコンクリート階段が



新湊マリーナとヨット・ポート



日本海側で1番大きな新港大橋

砂で埋まり少し顔を出しているだけである テトラボットがこんなにも砂止めになり多くの砂が運ばれてくるのかとしばらく見とれる 又歩き始めるようやくたどり着いた

レストラン「サザン」に行くも戸が開かない 13時30で終了 あとは午後5時からと書いてある今日は平日であり人が少ない様です 新湊マリーナもたくさんのポート ヨットが浮んでいます

又陸置きも超沢山 ここが日本海側で一番大きなマリーナであると聞かされていた 平日であり静かな様である 近くにお好み屋の看板 ここも13時30～休憩と書いてある 目の前にコンビニが ここでインスタントラーメンを購入しお湯を入れ外で食べる おいしい事 こんなに「インスタラーメン」がおいしいとは初めてである 休憩後新湊大橋近くまで歩く ここが伏木富山港である さすがに国際港であり大きいので他の港と比較するものが無い 渡し



海王丸の総帆展帆



極東杯国際ヨットレースがこの場所で 数人の方がランニング ここ

船で渡るか歩いて新湊大橋を渡るかあまり歩きたくないので 目の前の大橋を渡る 橋の上から富山湾が一望できるすばらしい眺めである 大橋の歩道内を

は良い所である 雨・風は関係なし エレベータにて降りる そこは海王丸パークである 帆船海王丸 大きな海上保安庁の巡視船 立ち止まって見ていると遊覧船がやってきました そうだここが日本のベニスだとガイド版に書いてある 周辺を少し散策する この場所でも有名な「タモリカップヨットレース」が開催されていた その後国際ヨットレース「極東杯国際ヨットレース」が最高の場所である 17時を回ったので先へ進む 目の前にキトキト市場

が見えてきた 駐車場が広いのに車の数が少ない ここも平日でありコロナの影響で少ないのかなと店内に入る 人影がほぼなし 時間が 17 時 30 を回っているからか 帰りの交通機関の駅は 万葉線が近い しかし歩きたくないので家に電話し迎えに来ていただく 18 時に車で帰る 即風呂に そして足の治療に 自分で自分の足を見たくない 痛みを我慢して妻に治療依頼 この足では無理です 歩くのは辞められと言葉が 心が揺らぐ あす起きてから判断すると話をした

4月6日(火曜日) 晴

朝6時に起床 歩けない 両足の爪周辺をくるくる巻きにして靴下を履く 少し歩く練習し何とか歩ける 妻には大丈夫と話し昨日の終了地点である「キトキト市場」迄車をお願いする

今日はここから氷見まで行きたいな 速いなと考えながら歩く 横には新湊漁港が 富山での漁獲高は 1 番は氷見漁港 2 番は新湊漁港と聞かされているが 3 番は魚津漁港なのか やはり大きい 富山で昼セリ市場がある所で見学もできる 歩きながらわかったのだが ここも港が2~3か所あるが何故なのかな 「JF女性部食堂」の見出しが目につく 昼



昼セリが行われる新湊漁港



映画の撮影場所の内川

には早いし記憶にとどめておく 歩くと坂のある橋が ここが日本のベニス内川で良く映画の撮影場所に 時間があればここもゆっくりと歩いてみたい場所である



新庄川橋と横に万葉線

突き当りに大きな川が見える ここが庄川である ここもむかしから小矢部川と庄川の河口が同じであり 合流地点で氾濫が起きたので分離され別べつの河口に「常願寺川 神通川 庄川」と河口が分離されている。

富山の大きな川だけが分離されているのか 全国の大きな川は

同じように土木工事で修繕されているのでは 調べてみたい 河口より上流部へ橋のある所までまず歩く 橋を渡る前に河原にパークゴルフ場が 多くの年配の男女が練習か試合が集まっている 少し見学し見ていると 「歩いとるがけどこまで 七尾まで 新聞で見たよ」の声が皆さん元気な様で誰に話し掛けても笑顔で そうです今日は天候も良く人の心

も笑顔になる日ですね　ここを離れて新庄川橋を渡る　渡るときに気が付いたが　河川敷に畑がある所と
ない所が　河口の一部しか見ていないので全体が解らないが　富山の7大河川はどうなっているのかなと気になる
渡ると六渡寺である。

名前から察するとどこかにお寺があるのかな　近くの人に聞くも解らず　先に進むと伏木港の河口が小矢部川である
富山でも伏木港・富山港は北前船で古い港である。

幾つかの貨物船が停泊している　海上保安庁の船も係留中でここから出航し日本の海の境界線を守っている

のかと改めて見直す　ここも河口より橋まで遠い　ようやく橋に　この橋の特徴は坂を上り長く斜めに掛かっている



富山県で一番長い伏木万葉大橋



万葉埠頭と豪華客船

いる橋で富山県で一番長い橋である
(610m)　伏木万葉大橋である
ここを下り伏木万葉埠頭へ
歩いても距離がある
沢山歩いて来たので足が心配　少し
休む　歩く　休むを交合に　足のサ

ポートが必要である

万葉埠頭に着く　やはり埠頭が超大きい　ここに世界でも有名な大型豪華客船が停泊しおもてなしが行われる場所
広くて大きいというイメージ　港の入口も出口も広い　ここなら出入りがスムーズに行くような気がする　目の前に
二上山が見える　ここは「万葉の発祥の地」である　主たる名勝地に名前が万葉と付く　地元の人たちの大切な文化で
ある　これからも万葉文化を大切に守って頂きたい

大伴家持がここで北陸地方を治めた場所で日本で一番古い歌(万葉集)をまとめた場所でもある　富山県の
一番古い灯台も測候所もこの場所に現存する　ここも一度はゆっくりと訪問したい場所である

まずはこの峠を越えないと　今は雨晴トンネルがあり短いトンネルであるそれでも100m以上はあるかな

抜けると又氷見方面の海が広がる　点在する島も見えてくる　有名な雨宿りした義経岩が見える　やはり観光地なのか車
の量が多い　有名な家持の1首に

“立山に降りおける雪を常夏に見れども

飽きず神からならし”

“本訳　一立山に降り積もった雪を一年中見ている飽きることがない神にそむかない山だからであろう”



雨晴海岸と義経岩

丁度お昼が過ぎたころであり道の駅「雨晴」にて昼食をとる。どのメニューも安くない。ここは観光地だから平日なのに他府県の車が多い。注文するも時間が掛かる。高山湾の能登半島方面が良く見え視界の良さに待ち時間が助けられる。

食事後すぐ歩きスタートを。ここは雨晴らしである。雨晴マリナーを目標に歩く。この海岸線にマリナーとは見ただけでも暗礁・岩礁が多い様に見受けられる。

当然出入りのコースは気を付けなければと感じる。海上係留は少なく陸置きが多いマリナーである。

毎回利用時に揚げ降ろしてこの場所での風が強い時は無理だなと見たがどうか？



雨晴マリナー



キャンプ場と海水浴場が併設

氷見迄遠いな。この辺は海水浴場が沢山ある。雨晴島尾 松田江浜。またここに海水浴場とキャンプ場が併設されている。

それでテントがアッチコッチに設置されてい

るのかとよく見るとこの辺は海辺の沖にテトラ

ポットがない。砂浜が続いている。それだけでも観光地である。

ここで犬を連れて海岸を歩いている方がおられたので声を掛ける。*どこまで行ってこられたのですか。「七尾までです・犬と一緒に歩いて来ました・ここにテントを張っています」*どこから来られたのですか。「岐阜の高山です良く来ますよとの返事」3日間で歩いて来ましたとリックと周辺に必要品がぶら下がっている。スタイルから多分山の好きな方と見ましたが自然を相手にこの様な方もおられるなど感じました。

ここで気がついたのは 朝日・入善・黒部・魚津・滑川までの間、問いかけると笑顔かそれに近いスタイルでお話させて頂いたが高山・射水ではそのように気持ちが通うスタイルでなかった様に感じた。高岡・氷見方面に入ると又気持ちよく応対して頂く様な雰囲気である。これは曜日には関係ない様で、なにがあるのか。人情的に都会的な地域はどうも難しいのかな？

松田江浜付近から17時が過ぎて寒くなり足がうずき始めた。氷見線の氷見駅迄行かなくては。近くの人に確認しながら歩く。市街に近づくとも線路を目標に聞きながら歩くと「曲がって又まがって」の言葉で案内されてうれしいが知らない土地では無理がある様です。曲がり角に来て都度聞きながら氷見駅へ。氷見駅に着くと 18:02分発であり時間があ

る 駅前にタクシーが2台待機しており明日の行動の確認しようとお話をさせて頂く

七尾まで歩いて行きますと話すが初めは相手にされず 少しずつ理解頂き話が進みました 遠い事がわかりました

ここでも自動車ですぐと聞かれればわかるが歩いてと言われると答え様がないと話されたが親切にポイントを教え



氷見駅とタクシー乗り場

になる

て頂く 遠いので漁港がいくつもある又立山連峰がよく見える。

雨晴しの島の背景より素晴らしい 島が3つあり ・唐島 ・蛇ヶ島 ・仏島で

ある 外は暗くなり18:02の高岡行き汽車に乗る

高岡で乗り換えで呉羽駅までいく そこから迎えに来ていただく

寒くなり歩かないので冷えてきて足の裏がひりひりする

心配 しんばい 家に帰り風呂 そして治療となる自分で足の姿を見るのも嫌

4月7日(水曜日)曇

朝起きて足の具合確認 右足の親指が遂に剥離しその隣も危ない 足の裏は水膨れで破裂し少し歩くも無理である 今日1

日計画を中断し体と足を休ませることにした

薬を沢山塗り包帯を巻き痛いので足を上に揚げて休むようにする。もう少し頑張ってくれと足にお願いする

足の治療に専念する



4月8日(木曜日)晴

今日はなんとか頑張りたい 足を包帯でグルグル巻きにし靴下を履き固定 ズックの紐を開き軽く結ぶ

家を6:30分に 呉羽駅 7:08分の汽車に乗車し高岡で乗り換えて氷見迄行く 8時から歩く 歩くもまだ本調子で

なくゆっくりと歩き始める 足は頼むよ まず氷見漁港はと聞きながら歩く 忍者ハットリ君の看板が 氷見が母屋である

ことに気が付く やはり大きな漁港である まだ漁港の駐車場に車が沢山見える 遊覧船も停泊している 今日天候が良

く海も穏やかである 比美乃江大橋を渡るもまだ車が少ない

横に5重の塔が見える 有名な番屋街が見える まだ車が少ない様だ ゆっくりと歩く ウオーキングしている方に多く会う 天候が良いからだろう 七尾方面の行き方を聞くと「この道をまっすぐ行かれ」「ザーと海岸沿いに行けば良いですよ」と海を見つめていた時 氷見は定置網の発祥の地であることに気が付く それで富山湾の海岸線近くに定置網が多いのかな ここまで歩いてきましたがほぼ定置網が沖合に設置されていたように感じる

富山湾が日本一定置網（79網）が多い県ではと考える。 今日はどこまでいけるか休憩を多くとらないと足が心配 途中で帰るときもバスしかないと考える バス停の看板を意識しながら歩く 右に小高い丘があり 昔阿尾城があった所が阿尾と地名になっている そこを過ぎるとスロープが長い坂に 痛い足で登るのが大変 ゆっくりと歩く、登りきった所にコンビニがあるそこで休憩とする 周りにはたくさんの看板がホテル・民宿 旅館など沢山ある様です 上から見える阿尾漁港そして藪田漁港 そのあと順次に宇波漁港・大境漁港・少し離れて女良漁港が存在する 今まで見てきた港と形・造りが少し違う 出入り口に防波堤が無い 波消しブロックが無い(少ない)。また小さい漁港が点在する ここは全て氷見漁港としてまとまるのか 富山県 NO1の漁獲高にすれば氷見漁港単体では大きくはないがまとめると大きな漁港になるのかと1人で考察している 歩くも人里が無い所もあり山があり すぐ横に海となるわずかの平地に民家が存在するイメージである (奥まで入っていないので詳しくは?)

今日は天気が良く立山連峰が海越しに大きく見える。この地から見る立山連峰も見事である。一番の見どころは「能登立山シーサイドドライブイン」から見るこの景色ではなかろうか。歩いていると海岸線は飛び出たりひっこんだり凹凸が大きい 歩いてきて海岸とはこのような形状が当たり前である 歩いているとあの岬を過ぎればまた次の長い岬まで遠い距離である これも潮の流れ波の流れ風の流れが影響しているのではと考える

大境の漁港迄来た。大境洞窟の住居遺跡の看板が見えて来た 近くまで行くも中には入れず こんな所で生活を昔でも大変であったろう ここで一休みし食堂を探すも季節外れなのか見つからず 紹介を受けた店には人がいない 途中で購入したパンとドリンクでのどを潤し太陽を一杯に受けて横になり軽く睡眠をとる 他人が見ると変に思われるだろう 体を休めると足がなじむまで少し時間が・・・ここから大境の岬越えである 足が痛いのでゆっくりと坂を登ぼる



氷見漁港沖の唐島



富山県で一番大きな蛇が島



県境にある仏島

自動車が通る 歩道と兼用である 畑で農作業をしているおばさんに道順を確認 「ここを道なりに行けばトンネルがあ

ります。そこを抜ければ隣村にです」と話される。まずトンネルをくぐる。中は涼しい。抜けると小さな民家が幾つかあると見たが近づくとも60軒から80件ぐらいか。海岸線にでる。海にそって前に進む。本当にここも富山県なのか。確認するも氷見市である。地図で確認するも平坦な海岸線であるが実際大きく凹凸があり又先が見えない。虹が島が近くに見える。この島が富山県で1番大きな島だな。南洋と北洋の植物も生えている所だ。岸から距離があるのでは2Kmほどかな。女良漁港より遊覧船が出ていると途中で聞いたが。海が荒れると大変だろうな。晴れた日に虹が島を背景に。雪のある立山連邦は最高だと話されていた。能登半島の先端に行っても立山連峰は目の前で良く見えるのだと。この景色は富山だけでなく、日本いや世界でも有数の場所だと聞かされる。

ここの方たちは海だけでなく立山も自分のエリアにされている状況が良くわかる。お昼は過ぎていても休むと足が痛くなるのでこのまま歩く。もう少しもう少しと自分に気合を入れながら歩く。近くの方に石川県との県境はまだですかと尋ねる。あそこ先の先端に小さな島が見えるでしょう、あそこが七尾との境界線です。大きな看板が立っていますと話される、まだあそこまでかと小休止する。

雪の立山連峰と海・虹が島。ゆっくりと歩く。少しずつ島影が大きく見えてきた。黙々と歩く。ついに県境に到着。富山県側にも石川県側にも大きな看板がある。沖合に小さな岩の塊がこれが弘島かと改めて見直す。よく見ると島とはとても考えられない。大きな岩ではないのか。島の定義が解らない。県境通過時なぜか涙が溢れました。



石川県との県境の看板・氷見市側



富山県との県境の看板・七尾市側



県境をまたいで石碑が建っている

4月1日に出発し今日は8日目である。お世話を頂いた北日本新聞朝日入善支局長高野さんに目的地まで来たことを連絡し謝意を伝えました。海沿いに歩くのは遠いのだが氷見に入ると大きく変わらず。何故なら海岸道路(防波堤)が無いので道路兼海岸道路である。海が荒れるとここは通行禁止になるのかなと考えた。海と道路の境は崖である。しばらく県境迄来た感覚に浸るも。遠くまで歩いて来ましたがその土地。その場所に目には見えない固有の文化がある事に気が付きました。昼食を忘れていた。近くのお店屋さんを探して何か食べるものを購入しないとお店に入るも昼食に合うものが無

い お店の方に確認する もう少し歩けばレストランがありますよと話されました。このような所にレストランがあるとは、また歩きかたバスの時刻も確認する必要があるので歩く。疲れているので距離が長く感じる 20分ほど歩くとレストランらしきお店が見えてきた その前にバス停とバスの時刻表を確認 その前がレストラン（普通の食堂である）でありお店に入ります

メニュー見て注文し食べる。ここもおいしい事、又食べに来たいと思いました バスの時間は15時02分です ちょうど県境の場所がバスの始発で15:00スタートである この県境には能登七尾バスの終点と富山の加越能バスの終点と同じ場所である やはり県境と感じる ここのお店の中に大きな壁いっぱいの写真が貼ってある 虹が島と海越しに見える立山連峰は何とも言えない見ごたえのある写真である 地元の方が話された通り日本いや世界の景勝地であることに改めて見直しました

バスに乗り約1時間余りで高岡駅へ到着 途中氷見近くまでは乗降のお客は2〜3人位でしたが氷見を過ぎると高校生が多く乗り降りしたバスである あいの風で呉羽まで行く 呉羽駅まで迎えに来ていただく。帰宅後風呂に入り足の状況を確認するも見るとも嫌になる 右足の親指の横の爪はまだとれないが剥離していた 今晚か明日にはとれそうだ（翌日取れました）

この後は左の親指も血で真っ青 時間の無駄である ゆっくりと風呂に入り足の手入れをして早めに床にはいる

あとがきは 「歩き終えて」に書きました

以上

新潟県の市振⇒石川県の七尾まで歩く

歩き終えて

スタートした時の目的は

- ① コロナ禍の中で動かなければ感染は収まる しかしそれが大変でありどうしたら生活環境を変える事が出来るか、密接密集を避ける方法はないかと
- ② 楽しみは遠くへ行くこと 1時期安近短の言葉がマスクミで 高山には良い所が 高山海岸の見どころ 行きたい所を探索する 下記内容を基本に

・世界で最も美しい湾 ・国が認定のサイクリングルート ・国が認定の高山湾がマリンチェック街道

この様な内容でスタートしましたが歩きながら少しずつ変化し始めました。富山県内の事は場所・位置・名前は知っていますがその土地・場所に来ると判らない事が沢山ありました。地図・案内板を見ていると方向性は判るが道順・どこに何があるかは地元の方でないと詳細がわからない事である。必然的に畑仕事の方に聞く・家にいる方に聞く・近くの方に聞く様になって来ました。

それが3日目か4日目ぐらいから「聞くスタイルは何か似ているのでは」と感じ始めました。それからいつのまにかこのスタイルは聞きながら確実な経路と土地の情報を確保できるので助かりました。

皆さんは大変親切です。話し始めると止まらない時もあり「有難う失礼します」と言えなかった時もありました。

“すみません少しお話をしてもいいですか” “道順を聞きたいのですがよろしいでしょうか”

と話しをする様になりました。

皆さんはお話したいのです 地元の方でも、以外の方でも

・今なになにを懸えていますと楽しそうに話しをされると聞くしかありません ・孫が元気でうれしいです ・旦那が家にいますので寄って行かれ ・今病院から帰って来た所ですと話が止まらない ・昔はね...、今はね ・今の若いもんは など書きだしたら沢山あります。それぞれの土地・場所に長い歴史と文化があり守りながらの日常生活を感じました。

在る高齢の方々は今の政治は・経済は・世の中は などなど時間があればゆっくりと聞いてあげたい方が多いのでは？

何故なら皆さんは心から語り話されていることが身に染みて解ります 今の世の中何か欠けているな...、なんだろうな...

うな... 人間味かな いや

人情が濃けているのではと完歩が終わり少し落ち替いてから気づかされました。

完歩した後テレビを見ていると「家族に乾杯」「ぼつんと一軒家...」などの番組を見ていて 必然的にこの様なスタイルで話していた事を思い浮かべました その時は真剣にお聴いする様な形で訪ねていましたが間違いはなかったと思っています。

富山湾の海沿いを歩いて来ただけで全体が判りませんが、県内には家族や友人たちと一緒に楽しむ、また気分転換する場所が沢山あると思います あくまでこの時期は少人数での楽しみがベストと考えます。またキャンプでは電気用品を使用しながら楽しんでおられ ますます便利な余暇の過ごし方になって来たことを感じました。

近くに発電機か又充電式の器具を使用されていますので調理用具・パソコン・テレビ・音楽など自由度が大きく広がります そして近くまで又ダイレクトに自動車(キャンピングカー等)が入れるところが多くあることに気が付きました。また設備が整っています(トイレ・炊事など)。ですから楽しみながら空間を時間を利用できることは素晴らしい場所でもあります。

私は

この計画を実行するにあたり体の事は気にしていませんでした。アミノランニングクラブにてトレーニングしていたので多少は体に自信がありました。しかし足に問題が発生するとは事前検討項目にはありませんでした。

スタートは民宿で宿泊しながらの計画でしたが初日から崩れ自宅にて足の手入れは想定外でした。計画通り2日目から宿泊しながらと考えましたが無理と悟りました。しかしそれを乗り越えて無理な所もありましたが満足しております。

調べて見たいところ 気が付いたところ またもう一度行ってみたい所など、時間を作りながら訪問していきたいと考えています。

最後になりましたが一番のサポートは妻であることに間違いありません。

この場で有難うと言わせて頂きます。

令和3年6月14日 記 松井和夫

「補足追記」

- ・徒歩時に感銘を受けた言葉（書いている私自身戦争体験はありません）

コロナ禍の日本国は緊急事態宣言が発令されているが残念なことにオリンピックパラリンピックを今の政治家は中止と言わない事象で進んでいる。これは第二次世界大戦前の状況と似ている。なぜなら誰もこの戦争はやらないようにと体を張って声を出す人がいなく突入した結果、敗戦という目に合い復興に国民の一人ひとりが血と涙と努力で乗り越えてきたのが今の日本である。今の政治家の中に戦争体験をされた政治家がいないのが現状で無かるうか。誰か良識ある政治家、経済界の方、社会的な影響ある方がこの世界的なパンデミックの時に中止を？しかし「安全・安心」「平和の祭典」「克服した証に」「福島の復興の・・・」何か足りないのでは・・・何かな 本来人間が人間としての正しい道に進む方向性でなかろうか。

- ・また多くの人にサポート頂きながら歩く事が出来ましたがその地方・場所には固有の地域文化が生活の中から生まれてきていると感じました。

- ・新聞を見ていて「地球温暖化の影響」についてある方が話された

今世紀末には4度以上気温が高くなり富山県は鹿児島県並みの気候になる 気候の変化が激しく大雨の頻度も倍増する 今年も桜の開花が7日早まった まだ体で認識している方は少ないのでは 具体的に立山に雪化粧が無くなり蟹気候は発生しない 平地でも雪が降らない 多分平地で作る野菜 見える景色が一変するのではと考えると恐ろしくなる。やはり文明・文化が進むと楽になるがそれに伴い弊害が大きく表れてくる 国連が行動を開始し日本も始めたSDGS（エスデージーズ）を強力に進めないと国が持たないいや地球が減ってしまうのではと熱く語られた方がおられました。

- ・富山は川の数が多い県と言われています

多分3方が大きな山で囲まれており急流である1方 川は海に流れる条件が揃っているから。7大河川は黒部川、早月川、片貝川・常願寺川・神通川・庄川・小矢部川・・・それに類する川はまだありますが海までの長さが短いのです。これは山と海の距離が短いからである。ですから瞬時に雨が川に流れ込む為氾濫が激しく県民は川との戦いの歴史ともいわれています・・・立山の砂防遺産登録が代表 各河川に必ず逸話があります（立山城もその一つです）。

・海岸沿いを歩いていて後で気が付いたのですがテトラポットの形が4種類あり形状が違います。目的により異なるのか、製造元が異なるのかわかりません。テトラポットは別名消波ブロックとされています。確かに投入されている場所は砂浜が膨らんでいます。多分年数がたつと今は沖合でもつながる可能性が大きく部分的にその様な箇所が見受けられました。

・沖合のテトラポットと陸が接続されている所が2〜2か所見られました。

どうして「沖合のテトラポットに女性の方も釣りを」と近くに行き確認した所。砂浜より石・テトラポットでつながり海水がとどまり陸地化してきています（岩瀬浜近郊・新湊マリーナ近郊など）

・後で河川敷について気が付いたのですが

大きな川を渡るとき（河口に一番近い橋から）河川敷に畑がある所とない所がある。何故かなと見ていたがわからず上流へ行けばわかると思うが、どこの河川敷でも広場がありスポーツの出来る場所に提供されている様ですが、河川敷はいろんな事に利用されている様です。ただし洪水になるとどうなるのかな。いや取り越し苦労ではと考える。

・大きな川の対応

大きな川には歴史があります。常願寺川は元は白岩川と河口で合流していたので合流点でいつも危険な状態に発展したので人工的に分離され今の姿になる。また庄川も小矢部川と河口近くで合流していたが人工的に分流された。神通川の河口近くには大きな川が無いが今の富山港は神通川の河口であった。しかし港であるがいつも川底が浅くなり撤去作業が大変であったので分離しすぐ橋に移動した（今の河口）。しかし流れが速くなり上流に向かって運搬船が行けなくなったので富岩運河を作った。今の松川・いたち川は旧神通川の名残りである。

・キャンプ場が多い。知名度の高い場所も多い

海岸だけでこんなに多くのキャンプ場があるとは知らなかった。平野部・山間部を含めると遠くに行くことは無い。高山の良さを再発見である。自動車で行ける。駐車場もある子供ずれでの楽しみが近くに存在しています。調べればまだまだある史跡・名勝が多いのではなかろうか。

富山海岸のヒスイ探しと投げ釣り。石田浜漁港の海に飛び出ている釣り場・生地の海の駅と移動橋・湧き水での洗い場など、調べればきりが無い。まだまだ良い所が沢山・・・

・県境で感じた事

富山と新潟の県境は境川である。この名前は越後と越中の境である事から付けられたと教えられました。越後は幕府の直轄地が多く他国からの出入りが激しかった。その名残が今でも続いているのでは。何故か

新潟県（幕府の領土） NTT 東日本 JR 東日本 東北電力 50ヘルツ

富山県（外様） NTT 西日本 JR 西日本 北陸電力 60ヘルツ

ただ区分されたのではなく歴史があつてこの様になつたのです。

富山県内でも 呉西（關西系）と呉東（關東系）では食文化・生活様式が少し（所によって大きく異なる）異なり江戸時代あるいはその前よりの支配エリアにより文明文化がつながりを見せているのではと考える。

石川県（加賀）との県境には差が無いのは、富山（越中）はもともと加賀藩の分家であり境界がある様でなかつたのではと考える。

・歩きながら考えた事

江戸時代の参勤交代や売薬さんたちが遠くまで行く時、個々にあるいはグループで重い荷を背負いながら歩いた事が想像される。雨の時・風の時・体調が悪い時・病が治らなく帰れなくなった方々・あるいは足が痛くて歩けなくなることもあつた事でしょう、年齢の事もあり、又薬の補給はどのようにしたのかなど多くの疑問点が沸いてきました。売薬と北前船は相関関係にあつたことも聞かされました。売薬の考えは現在も私たちのすぐ近くでお世話になっているものが。それは自販機でありこれが置き薬の基本形である。自販機は買うまでは設置者の物、利用した分だけお金を支払う考えである。おまけの言葉も紙風船の置き土産から発生したと聞かされました。

参勤交代も1日約40kmで1年前から宿・人員・他の参勤交代と重ならないように日・参勤経路などの確認、本隊の先と後に別のグループが隊のサポートを行つたと歴史書に書いてあり越中富山より江戸まで13日間で行く計画であつた様に大変な行動であつた事もわかりもう少し本格的に調べたいと考えています。

ちょうど4月半ばごろであつた。富山市で「くすりの語り部養成講座」を開催される記事を見ました（月1～2回の開催で1年間）受講者は3～5人程度の少人数で活動できる方と書いてあり申し込みました。難しいと思いましたが今回の少行体験の事も書きました。6月初めに採用通知が来ました。もう少し掘り下げて学び当時の苦勞を表に出し自分の数少ない経験を元に語りつなげればと思います。



以上